

MARK II

LPG

取扱書

OWNER'S MANUAL

Ⅱトヨタ コロナ マークⅡ LPGⅡ

本書はコロナマークⅡLPG車の取り扱い方法について編集してあります。

本書以外の取り扱い方法は、別冊のトヨタ コロナ マークⅡ取扱書をご参照ください。

この取扱書は次の車両について説明してあります。

セダン

排気量	グレード	エンジン型式
2000 (6気筒)	DX	M-U (LPG)

車両の仕様,その他の変更により本書の内容が車両と一致しない場合がありますので,あらかじめご了承ください。

CONTENTS 目次

LPG車の操作方法

エンジン始動	2
シフト・レバー	3
エンジンを長持ちさせるために	4
駐車について	4
燃料の補給	4

LPG車の手入れと整備

LPG車の作業点検	6
レギュレーターのタール抜き	7
エア・フィルター清掃,交換	7
エンジン・オイルの補給	7
冷却水の補給	7

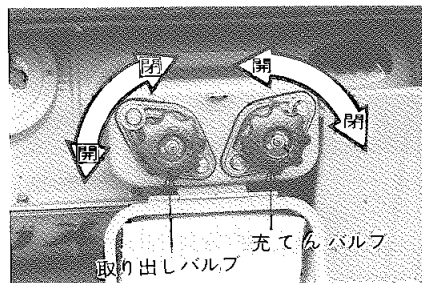
装備品について

エンピツ立て	8
装備品一覧表	8
整備基準値	9

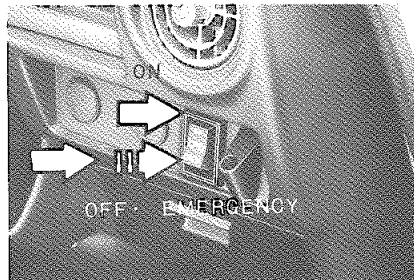
LPG車の 操作方法

■エンジン始動

エンジン始動は次の順序で行なってください。



1. トランク・ルーム内の液取り出しバルブをいっぱいに開きます。



2. LPGスイッチをONにします。LPGスイッチは始動時および走行中は、ONの位置にしておきます。押しがけなどスターターを回さないときは、EMERGENCY側を押えながら、エンジンを始動し、始動後すみやかにONにします。

3. アクセル・ペダルを踏まないで、エンジン・スイッチをSTARTの位置にし、スターターを回します。
4. 初爆後、アクセル・ペダルをわずかに踏み、回転を安定させてエンジン・スイッチをONの位置にもどします。

アクセル・ペダルはいっぱい踏み込まないでください。燃料が薄くなり、エ

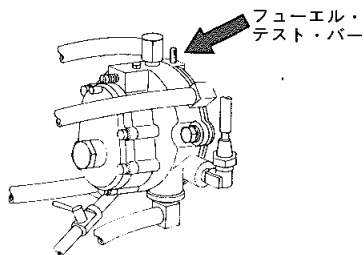
ンジンがかかりにくくなります。

5. エンジンがかかったら、スロットル・ボタンを引き、なるべく低い回転数(1000~1500rpm)でしばらく暖機を行ないます。エンジンが暖まったら、必ずスロットル・ボタンをもどしてから走行してください。

エンジン始動後5~6分は、極端にアクセル・ペダルをあおることはやめてください。気化熱がレギュレーターを凍結させたり、エンジンに悪影響を与えるおそれがあります。

エンジンがかかりにくいときは

1. LP ガスの出方が薄すぎるときはレギュレーターのフューエル・テスト・バーを2～3回うしろ側に動かしてからかけなおしてください。



2. LP ガスが濃すぎるときは、アクセル・ペダルをいっぱい踏むか、LPGスイッチをOFFにして少しスターターを回してからかけなおしてください。

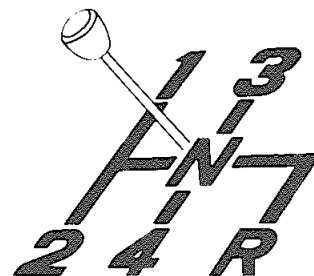


1. エンジンがかからなかったときは、しばらくそのままにしてください。連続してエンジンを始動すると、レギュレーターが凍結するおそれがあります。
2. 万一始動に失敗したときは、レギュレーターをぬるま湯で暖めます。その場合、レギュレーター以外の部品にぬるま湯がかからないように注意してください。
3. エンジンが暖まらないうちに、レギュレーターが凍結することがありますので、必ずロング・ライフ・クーラント(濃度)50%を入れてください。

■シフト・レバー

<4速フロア・シフト>

<4速フロア・シフト>



■エンジンを長持ちさせるために

1. 新車時は特に控え目な運転をしてください。
2. エンジンをオーバーランさせないために、各シフト・レバーの位置での速度が次表の数値を越えないように運転してください。
3. 特に高速走行時のシフト・ダウンは注意してください。
エンジンをオーバーランさせるおそれがあります。

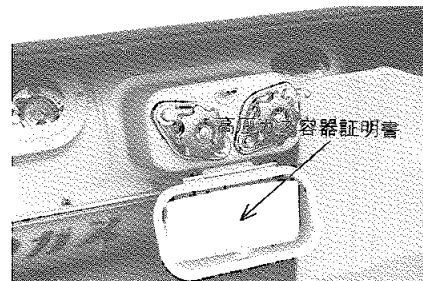
トランスミッション	1速	2速	3速
4速マニュアル・フロア	40	70	100

■駐車について

1. LPGスイッチをOFFにする。
2. エンジン・スイッチをLOCKにしてキーを抜く。
3. 長時間駐車するときは、ポンベの取り出しバルブをとじる。

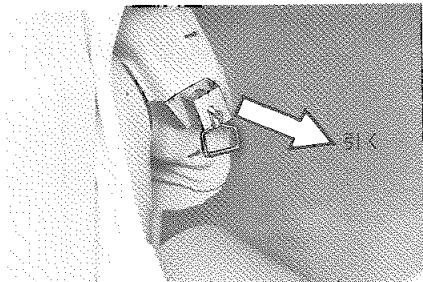
■燃料の補給

LPGは「高圧ガス取締法」の適用を受けますので、各ポンベには「高圧ガス容器証明書」がついています。運転時およびLPガス充てん時には必ずこの証明書を携行してください。

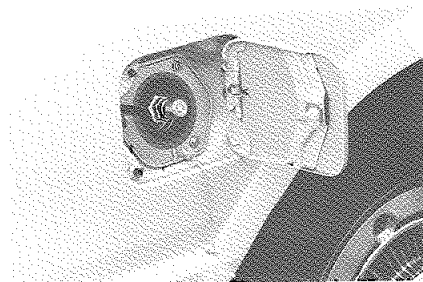


補給のしかた

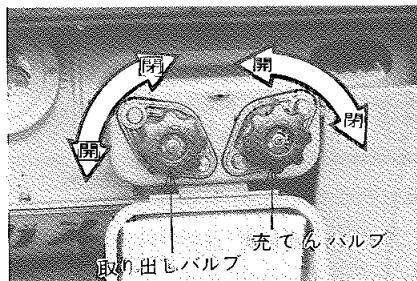
1. LPGスイッチをOFFにする。
2. エンジン・スイッチをLOCKにする。



3. トランク・ルーム右端のレバーを引き補給口のカバーをあける。



4. 補給口のビニール・キャップをはずす。



5. トランク内ポンベの液取り出しバルブを締め、充てんバルブをひらく。
6. LPガス充てんガンを確実にセットし注入する。

タンクには過充てん防止装置がついていますので、約80%以上は充てんされません。

7. 液充てんバルブを締め、液取り出しバルブをひらいてトランクをとじる。
8. LPガス充てんガンをはずし、補給口にビニール・キャップを取り付ける。

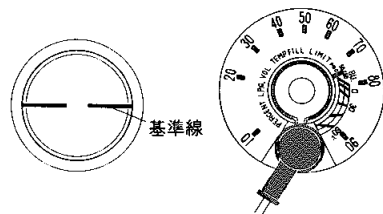
LPガスはブタン成分の多い、純度の高いものを使用してください。

★注意

LPガスの補給は、LPGスタンドの係員におまかせください。

その場合、指定場所以外で火気を取り扱わないよう十分ご注意ください。

フューエル・ゲージ



外周の数字がポンペ内の燃料容量を%で表わします。また、充てん量を目で確かめられるよう、のぞき穴が取り付けられています。基準線以上は入れないでください。

LPG車の 手入れと整備

■ LPG車の仕業点検

一般の仕業点検に「ガス漏れの点検」も必ず追加して実行してください。

点検のしかた

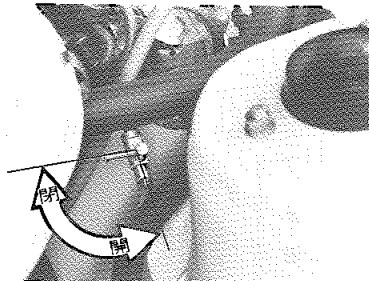
1. トランク・ルーム内の液取り出しバルブをひらきます。
2. エンジン・スイッチをONにし、LPGスイッチを**EMERGENCY**側に数秒間押してください。
3. エンジン・ルーム内のパイプ接続部に、石けん液または中性洗剤液を塗ってガス漏れのないことを確認してください。点検後は必ず石けん液などをふき取ってください。

★注意

ガス漏れの点検には、絶対に火気を使用しないでください。

また、夜間の点検には、照明の替わりにマッチ、ライターなどを絶対に用いないでください。

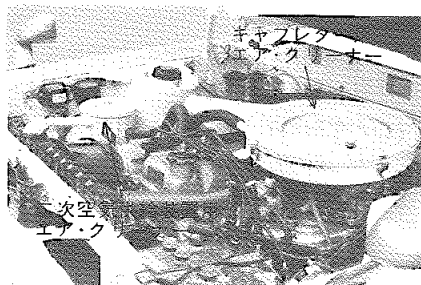
■レギュレーターのタール抜き



1. レギュレーターが暖まっているときに、レギュレーター下部のドレーン・コックをひらきます。
2. タール状の物質を出してください。
3. タール抜きが終わったら、ドレーン・コックを必ずとじてください。

レギュレーター内にタール分が付着すると、触媒装置の浄化性能を損なうおそれがあります。タール抜きは週に一度は行ってください。

■エア・クリーナーの清掃、交換



乾式エレメントを使用しています。
 清掃は10,000km（未舗装道路は3,000km）走行ごとに内側からエアを吹きつけて行ないます。
 交換は40,000km走行ごとに行なってください。

二次空気供給装置用エア・クリーナー
 乾式エレメントを使用しています。
 清掃は10,000km（未舗装道路は3,000km）走行ごと、交換は40,000km走行ごとまたは2年ごとに行なってください。

■エンジン・オイルの補給

補給オイルは、キャッスル・モーター・オイル・クリーンLPG・SAE 30（寒冷時SAE 20）を使用してください。

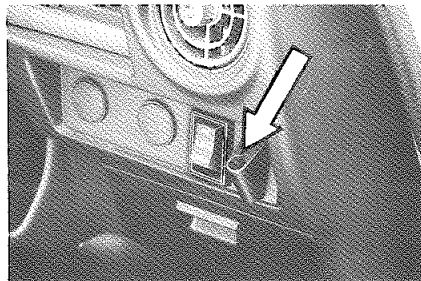
■冷却水の補給

キャッスル・ロング・ライフ・クーラントの50%液をご使用ください。通常は2年で交換してください。

凍結防止温度	-35℃まで
ロング・ライフ・クーラントの濃度	50%

装備品について

■エンピツ立て



LPG スイッチ右横に、エンピツ立てがついています。

■装備品一覧表■

LPG 車の装備品は以下のとおりです。

なお取り扱い方法については、別冊のトヨタ コロナ マーク II 取扱書を参照してください。

装 備 品		
オイル・プレッシャー・ウォーニング・ランプ		●
間欠ワイパー		●
リヤ・ウインドウ・デフォッガ		●
チルト・ステアリング		△
防眩式インナー・リヤ・ビュー・ミラー		●
ELR 式フロント・シート・ベルト		●
リヤ・シート・ベルト		●
時計 (音さ式)		●
グローブ・ボックス・ランプ		●
トランク・オープナー		●
アンテナ (リヤ・ウインドウうめ込み式)		●
ラジオ	AM	●
	AM/FM	△
	AM/FMマルチ	△
カセット・ステレオ		△
エア・コンディショナー		△
パワー・ステアリング		△

●標準装備

△注文装備

●整備基準値●

＜各部調整値＞

排気量およびエンジン 型式		2000 (6気筒)
		M-U(LPG)
Vベルトのたわみ量 (mm) (押す力10kg)		8 ~ 12
スパーク・プラグ・ギャップ (mm)		0.7~0.8
アイドル回転数 (rpm)		650~750
ブレーキ・ペダル (mm)	遊 び	3 ~ 6
	踏み残り代	80以上
クラッチ・ペダル遊 び (mm)		5 ~ 15
ハンドルの遊 び (mm)		0 ~ 30
タイヤ残り溝の深さ (mm)		1.6以上

＜各部容量＞

エンジン (エンジン・オイル) 全容量	5.2 l
トランスミッション (ギヤ・オイル)	2.7 l
ディファレンシャル (ハイポイド・ギヤ・オイル)	1.4 l
ステアリング・ギヤ・ボックス (ギヤ・オイル)	0.4 l
冷却水	11 l
フューエル・タンク	72 l
パワー・ステアリング・フルード	0.8 l

サービス データ

使 用 燃 料	L P G	
燃 料 タ ン ク 容 量 (ℓ)	72	
エンジン・オイルの量 (ℓ)	5.2	
タ イ ヤ ・ サ イ ズ	6.45-14-6PR, 175SR14	
タイヤ空気圧 kg/cm ² () 内は高速時	前 輪	1.6(1.9)
	後 輪	
エンジン・オイルの交換	6か月または5,000kmごと	
オイル・クリーナー・ エレメントの交換	6か月または10,000km	
プ ラ グ の 型 式	W20EPR, BPR6ES	
エア・クリーナー・ エレメントの交換	40,000km	

●印刷=昭和53年10月19日

●発行=昭和53年10月24日(非売品)

★車両の改良により本書の内容が車両と一致しない場合がありますのでご了承ください。

●編集=トヨタ自動車販売株式会社・サービス部 〒452愛知県西春日井郡春日村

●発行=トヨタ自動車販売株式会社・販売拡張部 〒461名古屋市中区東一丁目23番22号

無断複製禁止

安全はトヨタの願い
TOYOTA

1898302 (N)